

こんにちは

西部保育園でーす



春

夏

秋

冬



命より大切な命

ゆり組 菅野心くんの母

私は正直、子供が苦手でした。「将来、母になる時が来たら私、大丈夫な命に出逢いました。二人の子供の存在は、私の生活の中心となり、涙を誘う喜びを沢山与えてくれます。春が来れば、心は小学生という大きな喜びと節目が待っています。振り返ると、生後三か月から保育園にお世話になり、今まで沢山人な事がありました。さくら組の時はミルクを飲む度大量に吐くため、入園後間もなく入院。一歳位になると吐く事が少し治まったかと思えば、熱や下痢で何度もお迎えの電話…。心が良くなれば今度はお姉ちゃんが熱…。ひしひしと子育ての大変さを実感した時期でした。

成長と共に体も丈夫になり、今では「熱、前出たのいつたっけ？」と思う位、男らしい丈夫な体になりました。近頃は、大人並みの暴言で私と口げんかをする事もしばしば…。そんな心も園生活残り僅かとなりました。登園して、私と別れの儀式をしようと、私が車に乗るまで窓にへばり付いて何回も手を振って見送ってくれ、私が名残惜しくてなかなか車までたどり着かないと「社長に怒られっから早く仕事さ行け！」と。時々淋しそうな表情で窓にくっついてバイバイしていると、しつこい私は「まだ窓で私を見送っているのでは…」と思ひ、少し車を走らせ確認するためコッソリ園に戻った事も…。勿論、もう心は私の姿が見えなくなるかと遊びに夢中になるので、そこに心の姿がある訳ないのに…。恥ずかしい話です。(笑)

そんな何気なく毎日を過ごした保育園に毎日元気に登園できたのも先生方の協力があったからこそです。心から感謝します。長く通った園と、いよいよお別れと思うと淋しい気持ちになります。園での思い出を大切にしたいです。子供の成長を見守っていきなさいと思います。最後に、丈夫な体と丈夫な心で産まれてきてくれた二人の子供達のお陰で私は今、色々な面で幸せを感じます。ありがとう…。



キラキラ連絡ノートより

最近、お迎えが遅いせいもあって少しバタバタしていたら、「おかあさん、よゆうなせすぎ！」と叱られてしまいました。「順番通りにゆつくりやっつて大丈夫だよ。」と…。どっちがお母さんかわからない最近です。しっかりしてきたなーとびっくりすることも多いです。(3歳 女児)

Kくん、「ちょうだい」「どうも」を憶えました。「ちょうだいは？」というと「チヨッタイ」と手をパチパチするK。「どうもは？」というと頭を下げて「ドード。」めんごすぎて何回もしちゃいます。(0歳 男児)

職員による演奏会

12月14日におたのしみ発表会が行われました。子どもたち一人ひとりの笑顔が輝く、すてきな発表会になりました。子どもたちに生の音楽に触れてほしいとの思いから、職員で合奏メンバーを募り、「あまちゃんのオープニングテーマ」を演奏しました。子どもたちは、静かに目をキラキラさせながら耳を傾けてくれました。普段とは違う職員の姿にびっくりしながらも、いろいろな楽器を見て、それが一緒になって奏でる音色を楽しんで聴いていた子どもたちでした。



編集後記

子ども自らがさまざまなことを経験することで、いろいろなこと感じ、考え、発見しています。そして、成長と共に経験できることも増えていきます。私たちはたくさんの体験を保育に取り入れ、子どもたちと共に体験し、一緒に喜んだり、感動したりしていきたいと思ひます。

子どもたちの笑顔に囲まれて
興道西部保育園園長 鈴木良知
日本では昔から子どもを「子宝」と呼んできました。子どもは親御さんの宝であり、また、次世代の社会を担う社会の宝であります。
以前、博物館で「子を背負う女」という地輪を見たことがありますが、その表情はともおだやかで、子どもを背負ったお母さんが子守歌を唄って聴かせている様でした。大昔の人たちも今の私たち同様、子どもを大切に育てていたので、思い、心が温かくなりました。
さて、保育園に通う子どもたちは様々な経験を積み重ねて、日々成長してゆきます。遊ぶこと、食へること、寝ること、保育園での全ての出来事が成長に必要であると思っております。今日も保育園には元気な子どもたちの声が響きます。これからの長い人生の礎となる大切な時間を一緒に過ごすことができることを嬉しく思います。

こんなことを大切に保育しています

さくら組 (0歳児)



月齢差が大きい0歳児。その子の育ちに合わせた保育者の応答的なかわりの中で、子どもの要求を受けとめながら愛着関係を育てています。また、一人ひとりのリズムに合わせ、園で2回離乳食を食べながら、徐々に生活リズムを整えていくようにしています。



うめ組 (1歳児)



1歳児は歩けるようになり行動範囲も広がってくるので、安全面に配慮しながらのひのび探索活動ができるよう保育しています。また、言葉の数も増えてくる時期です。子どもの言葉に耳を傾け、伝えたい気持ちを受け止めことばで補いながら、伝わる喜びが感じられるようにかかっています。

もも組 (2歳児)



2歳児は、指先の発達が著しく、指先を使っていろいろなことができるようになってきます。ひも通しあそびやボタン・スナップあそびなど、指先を使ってあそぶ経験をたくさん保育に取り入れています。指先の発達によって、簡単な身の回りのことが自分でできる満足感が自信となり、やがて主体性が育まれ見通しをもって生活できるようになっていきます。

たんぽぽ組 (3歳児) すみれ組 (4歳児) ゆり組 (5歳児)

クッキング

食べることが好きな子どもたちは、調理することにも興味津々です。様々な食材の香りや感触、調理していく過程で形が変化する様子を見て楽しんでいます。食事を作る楽しさを知り、食べることへの意欲や大切さを伝えていきたいと考えています。



よもぎだんご



カラフル揚げぎょうざ



かぼちゃのプリン

畑

当園には小さい畑があり、毎年、ゆり組のお友だちが野菜づくりに取り組んでいます。今年は、キュウリやトマト、里芋、ジャガイモ、大根、白菜...などを作りました。「芽が出た」「花が咲いた」「小さい実がなった」と生長を見つけると、目をキラキラさせて知らせていました。収穫した野菜は、給食室で調理してもらったり、年長児がカレーを作り味わいました。これからも、食物ができる過程を楽しみながらいろいろな野菜や果物を作りたいと思います。



えだまめ
いただきます

給食

子どもの成長に配慮し、季節感と栄養を大切にした食事を提供しています。素材の味を生かし、自然のおいしさを感じられる味付けを心がけています。保育者と連携しながら食育活動も行っています。



テ-ト!



異年齢

幼児組はみんなでお過ごことが多いので、異年齢の交流が盛んです。年上の子が年下の子に優しく話しかけ、お世話しようとする姿がよく見られます。散歩の場面では、年上の子が手を引いて危ない箇所を避けたり、くつが脱げると履かせてくれるなど思いやりの気持ちが育っているのを感じます。



モンテディオふれあいフィールド

モンテディオのサッカー教室では、ボールに親しみ楽しくあそぶことをテーマにいろいろなあそび方を教えてもらいました。最後にしたシュートごっこは特に楽しかったようで、後日、園庭や公園でゴールに向けてシュートを楽しんでいました。



リズム運動

リズム運動の音楽が始まると、曲に合わせて走り止まったり、四つん這いで進んだりしています。1曲の中でオクターブ音が異なると向きが変わることもあるので、身体を動かしながらもピアノの音にも耳を傾けています。リズム運動をすることで体の柔軟性や集中力も養われているようです。



あそび

ゆり組さんが里芋の収穫をする時、大きな葉がついた長い茎を切り取り、脇に置いている様子を見ていたすみれ組、たんぽぽ組のお友だち。「これ、もらっているの?」と、さっそく遊びに使っていました。茎がしっかりしていて葉がとても大きいので傘のように持ち「雨が降っても大丈夫だよ」と見せてくれました。中には二人で仲良く茎を持ち、相合傘を楽しむ姿も見られました。



さといもの
はっぱのかさ、
あてまじょう?

興譲館吹奏楽コンサート

興譲館吹奏楽研究クラブの方に来て頂き、演奏を聴かせてもらいました。知っている曲の演奏では口ずさんだり、体を揺らして聞いていました。きれいな音や大きな音にウットリしたり驚いたりしていた子どもたち、生演奏の迫力に大きな拍手を贈っていました。

いろんな
楽器が
あるな

